

病院の 実力

～神奈川編 173

肝臓がん

今回は、「肝臓がん」を取り上げる。一覧表には2021年に手術などの治療を受けた人数を掲載した。

治療は、手術のほか、内科的な治療がある。がんの位置、大きさや個数、肝機能などで選ぶ。手術は、がんとその周囲を切除する。開腹手術と腹腔鏡手術がある。

腹腔鏡手術は、おなかにあけた小さな穴から器具を入れて、操作する。患者の心身への負担

脂肪肝から進行注意を

が比較的小さいが、肝臓には多くの血管が走っている。手術は、出血のリスクが大きく、難易度が高い。経験豊富な医療機関で受けたい。

手術と並び、根治が期待できるのは焼灼療法だ。肝臓に電極針を刺して、ラジオ波などでがんを焼く。持病のある高齢者や肝機能が悪い人も実施できる。

がんが多発し、手術や焼灼療法が難しい場合は、肝動脈塞栓療法を行う。がん細胞に栄養を運ぶ血管をふさぎ、がんを死滅させる。

転移がみられたら、薬物治療が柱となる。この10年余りで新薬が次々に登場した。2020年に公的保険が適用された免疫

治療薬テセントリク(商品名)と分子標的薬アバスチン(同)の併用療法は、従来の治療より効果が高く、薬物療法の第1選択になっている。

肝臓がんの原因の大半はC型、B型などのウイルスによる肝炎だが、画期的な治療が普及し、がんに進行する人は減っている。代わりに脂肪肝からの発がんの割合が増加しており、注意が必要だ。

食事、運動予防に重要



湘南鎌倉総合病院 肝胆膵外科 柏木 宏之 主任部長

肝臓を1本の木に例えると、胆管や血管が枝、肝組織が葉のイメージ。葉の色が変わった部分をがんとする、取り除く治療にいくつかの選択肢がある。

手術は枝の根本から切除する方法。色が変わった部分が広くても確実に切除できるが、正常

な薬も少なからず切除される。3個以内の肝がんで肝機能が正常であれば推奨される。近年は腹腔鏡手術が多く採用され、拡大切除も可能となった。手術後1週間程度で退院できるようになった。

焼灼療法は、色の変化した葉をその場で焼くようなイメージ。周囲に延焼する可能性はあるが、肝機能が比較的悪くても選べる利点がある。腫瘍が3cm、3個以内であれば適用となる。

そのほか、枝を縛り上げるような血管塞栓療法、悪くなった葉に直接ビームをあてる放射線治療、地面に薬をまくような化学療法などがある。まれに肝移植も選択される。外科だけでなく、消化器内科や放射線腫瘍科とも協議し、最適な治療を進めている。

湘南鎌倉総合病院は、通常の放射線治療と陽子線治療が可能だ。県内唯一の陽子線治療施設で、太い血管に近い場所の肝がんに対し効果が期待される。

脂肪肝から脂肪肝炎となり、発がんする割合が増加している。脂質異常症や脂肪肝と言われた人は、予防に食事療法、運動療法を取り入れることが重要で、時に薬物療法も必要となる。定期的な検査を勧めたい。

全国の調査結果は19日の「安心の設計面」に掲載しました。

病院の実力「肝臓がん」

医療機関別2021年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	切除手術		塞栓療法 (人)	免疫治療薬と分子標的薬の併用療法(人)
	総数 (人)	うち腹腔鏡 (人)		
北里大	35	35	68	118
県立がんセ	31	4	48	64
東海大	30	7	25	58
湘南鎌倉総合	24	11	11	18
横浜市大病院	20	8	110	76
昭和大横浜市北部	16	3	8	14
小田原市立	16	2	4	19
市立川崎	15	10	3	18
湘南藤沢徳洲会	14	0	1	26
横浜市大市民総合医療セ	13	1	82	95
聖マリアンナ医大	13	1	23	85
済生会横浜市南部	13	3	23	10
藤沢市民	13	0	6	23
済生会横浜市東部	13	7	0	6
横浜市立みなと赤十字	12	2	18	20
横浜労災	10	0	3	1
聖マリアンナ医大横浜西部	10	0	0	15
厚木市立	8	3	6	9
国・相模原	8	7	3	28
川崎市立井田	8	1	0	13
新百合ヶ丘総合	7	0	50	17
横浜南共済	7	5	3	17
川崎市立多摩	6	0	11	24
平塚市民	6	4	8	37
戸塚共立第1	6	0	1	10
けいゆう	5	0	17	17
横浜栄共済	5	0	0	0
横須賀市立うわまち	4	0	0	7
帝京大溝口	2	0	11	18
海老名総合	2	0	4	16
川崎幸	2	1	1	10
藤沢湘南台	1	0	4	0
横浜旭中央総合	1	0	1	2
虎の門分院	0	0	38	68
横須賀共済	-	-	-	-

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「-」は無回答または不明